

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域の中でその人らしく暮らすとはどういうことなのか、具体的にもっといろいろな意見がでてほしい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	日々の申し送り等での唱和など、常に言葉にすることでもっと浸透させたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	次年度は、ホームページづくりに取り組みたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	いつも交流している、なごやか会のメンバーの皆さんに、碁や将棋・話し相手など、気軽に来ていただけるようにする。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	現在は特定のグループとの交流会が主な活動となっているので、今後はホームからの情報発信を自治会などに定期発信して、交流できる機会を増やしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	18年の集中豪雨による水害を受け、地域の方の一時避難場所として使ってもらえるよう、災害マップにも掲載していただいた。また、会議室やコミュニケーションルームを地域の方には無料で使ってもらっている。	○	ビル周辺は、非常に高齢者が多い地域なので、避難時の役割や連絡ルート等を明確にし、緊急時に備えたマニュアルづくりを公民館や関係者と相談して作り上げていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年2回の自己評価を実施し、サービスの向上に取り組んでいるが、まだ、具体的な改善が個々に見られない現状がある。外部評価についても、管理者の思いだけが先行しており、何故するのかという意義を全職員・運営者が理解できるよう、努力が必要かと思われる。	○	今回の外部評価の結果を受け、全職員での勉強会を実施する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催毎に、サービスの現状等の説明や具体的な計画をお話し意見を頂いて、いくつかの改善項目も実施している。また、ホームが抱える問題点なども隠さず報告し、現状をありのまま理解していただけるよう取り組んでいる。	○	家族の参加が非常に少ないので、どのようにしたら参加いただけるかの取り組みをしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	こちらからの相談や報告はもとより、市や社協等から依頼された内容についてもできる限り協力し、地域密着型としての役割を果たしていくようにしている。	○	松江市のグループホーム部会の体制づくりに協力する。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現入所の方で利用されているかたが数名いるため、事例としての説明がしやすく、その都度勉強の機会をもつようになっている。	○	成年後見制度を申し込む方がいるので、事前に研修をおこないたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入職員の研修内容にも入れている。暴力だけでなく、言葉の虐待や返事をしないなども虐待になることを常に指導し、相手の立場にたって考える研修教育をしている。	○	虐待の知識の共有に向け研修の継続と、職員自身の虐待防止に向けた取り組みを啓発していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に向けての説明は十分に行っている。可能な限り、ご利用者自身にも説明をしている。	○	理解ができない方についての説明や同意についても努力はしていくべきであろうと思われる。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から、できるだけご本人から意見や言葉をだしていただけるようなケアの取り組みを行い、本人の言葉や行動についてそのまま記録に残すことを指導して、本当はどうしてほしいのか主観的な思いを考察できるよう話し合いをおこなうようにしている。	○	今後もご利用者の意見や思いを引き出す工夫をしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、敬愛苑便りを発行し、担当職員からのコメントや写真を掲載して報告している。	○	敬愛苑便りはお一人ごとに作成しているため、非常に手間と時間がかかるが、もっと喜んでいただける内容にグレードアップしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑の際にお話をさせてもらったり、要望をうかがったりしている。敬愛苑便りでも、常に意見等を言ってほしいと記述をしている。	○	家族懇談会を開催する方向性もちたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現状で、業務に追われて全体ミーティングの時間をもつ機会がない。また、機会を設けても職員間での意見が言いやすい雰囲気とは言えない。意見箱等いろいろ考察している。	○	意見が言いやすい雰囲気や場面づくりに努力したい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や利用者の誕生日に合わせ、担当職員を確保する等の配慮は常にしている。また、夕食後に入浴できる体制や、突発的な対応ができるように管理者と看護師を追加配置している。	○	要望やニーズに適宜対応するためにも、職員間で常に見直すことのできる観察力を養う。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動についてはないようにしているが、離職は止められず、利用者への影響はないとは言えない。ここ6ヶ月は固定化され、馴染みの関係が維持されている。できるだけ職員の待遇や職場環境を整えるための話し合いの努力をしている。	○	職場の環境づくりのために、情報収集し少しでも働きやすい職場するよう改善する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部研修の参加の機会や社内研修を計画し、育成する努力をしている。	○	職員のやる気をおこさせるための、OJTなどの取り組みをしたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他事業者との交流や勉強会・連絡会等の活動は積極的に参加できる取り組みをしている。また、会合等の開催場所としても活用できるよう配慮してくれている。		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	休憩は場所や時間にも配慮し、ゆっくりリラックスできる体制をとっている。また、勤務管理をきちんとしており、休日の確保や残業管理など過重労働にならないよう配慮している。健康診断や保健師による健康相談など全員を対象に実施している。	○	仕事以外でのコミュニケーションが図れる機会やサークルづくりなどを推進していきたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	管理者からの報告はしているが、向上心を持続してもらうことは大変難しい。特に離職を防止するためにも、独自の工夫やある程度の決断力が望まれる。	○	職員の悩みや努力が報われる体制づくりを支援する必要がある。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	相談を受けてからの記録を残していくことで、少しずつ情報を収集し本人がどのような思いをもっておられるのか十分に検討できるように努力している。	○	情報収集シートを確立したい。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	相談を受けてからの記録を残していくことで、少しずつ情報を収集し家族がどのような思いをもっておられるのか十分に検討できるように努力している。	○	情報収集シートを確立したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じたサービスをすすめたり、緊急を要する方については、他の事業所への紹介や空き情報を提供したりしている。	○	グループホームの部会設立に際し、空き情報や本来利用者が必要としている情報提供をしていく提案をしたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り、併設のデイサービスを利用して頂いて、少しずつ施設に馴れて親しんでもらったり、入所までの段階でおやつの時間を何度かいっしょに過ごしてもらったりしている。	○	なかなか家族の理解が得られず、いきなり入所のケースも少なくない。何故そういうことが必要なのかの啓発活動も必要と思われる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	しすぎない介護とコミュニケーション技術が、活かされてされてこそ本来の介護技術であるとの指導をしている。業務優先ではなく、毎日の生活そのものを共有し、人生の先輩として尊厳のある生活をおくっていただけるよう努めている。	○	ご利用者個々のアセスメントに基づいた実践をすすめていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の役割を入居時にお話させていただき、いろいろな場面での相談や支援を依頼してし、また協力もしてもらっている。	○	家族がない方についての方向性について、検討する必要がある。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	どうしても疎遠だったり、いっしょに生活をしていなかったり、さまざまな環境の方が、今後の関係がより良くなるように、情報交換しあい、関係づくりができるよう取り組んでいる。	○	どのような関係の維持が必要か、家族との話し合いをしていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や郵便等により継続した関係が保てるよう支援している。また、可能な限り入居前の主治医に継続して診てもらえるよう配慮している。化粧品や喫茶店など、本人が望まればいっしょに行くような支援もおこなっている。	○	全く、そういった馴染みのないかたも実際にはおられる。時と場合により都度判断しているが、ある程度の決めごとは必要。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の席や、外出の機会など、関係の良い悪しを配慮したり、また関係づくりがスムーズにいこう、気をくばっている。	○	利用者間でのトラブルが発生した場合の対処の仕方等の、事例検討会をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	日頃からの関係づくりで、先方より連絡して頂く機会が多い。入院などは見舞いに行ったり、病院の相談員に様子を伺うなど、適宜行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	こちらから提案したものを選んで頂くのではなく、本人の言葉や思いをくみとってあげられるよう、普段からの何気ない仕草や言葉を観察している。誕生日などは、本人がしたいことを聞いたり、普段の様子で担当者が思いを代弁したりできるようにしている。	○	現在アセスメントシートを検討中
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの段階でできる限りの情報収集に努め、入居してからの生活に不安がないように、気兼ねがないように生活してもらえるよう準備を整え、入居されてからも本人の訴えをとにかく重視するようにしている。	○	現在アセスメントシートを検討中
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常の生活リズムをホームに合わせるのではなく、可能な限りご本人のペースを優先し、したいことできることを大切に思う援助をしている。	○	現在アセスメントシートを検討中
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向や家族の意向を伺ったうえで、ユニットでの担当者会議をひらき介護計画を作成している。状況に応じて、本人にも参加してもらっている。	○	介護者のための介護計画とならないよう、日々のモニタリングやアセスメントの活用などの勉強をしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画のチェックシートを作成し、見直しが必要な場合の目安をつけられるようにしているが、活用できていない。	○	介護計画作成のために必要な流れが、計画作成担当者までしか理解できていないのが現状のため、上記の研修の実施を定期的に行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要な情報を見やすくするための様式を作成しているが、活用できていない。情報の共有はできている。	○	介護者のための介護計画とならないよう、日々のモニタリングやアセスメントの活用などの勉強をしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	つれ合いの方にデイサービスをご利用頂き、その日はご夫婦で過ごせる時間をつくったり、両方のカンファレンスに参加したりしている。必要なら2カ所～3カ所に敬愛苑便りを送り、こちらでのご様子を知ってもらうよう心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	特に民政委員・福祉協力員とは密に連絡を取り合い、交流や地域での活動の情報源となっている。また、警察の交通指導員の講習にでかけたり、消防との連携も随時おこなっている。障害児・小中学校の体験学習なども受け入れしている。	○	今後、ボランティアの募集をしたり、地域の方に有効活用していただける活動を考えていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	医療が必要となった場合や、困難事例などを相談したり、継続したサービスの実現や別のサービスの利用などの情報奉還等を随時おこなっている。	○	居宅・デイサービスとの関わりと連携も含めて、今後もあらゆる面から支援ができる体制を整えたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での情報交換の他に、他の地域の包括支援センターとの連携もすすんでおこない常に協力関係の維持に努めている。	○	居宅・デイサービスとの関わりと連携も含めて、今後もあらゆる面から支援ができる体制を整えたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム側から、今までの主治医の継続をできるだけして頂きたい旨を説明している。どうしても難しいご利用者に関しては、病状に応じた病院への紹介を行い、適切な医療がうけられるよう支援している。緊急時の搬送先の病院の希望も事前に確認している。	○	医療連携加算は現在とっていないが、体制は整えているので検討したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症の専門医に往診していただいている方も多く、常に相談できる。また、そうでない方についても、必要に応じ、専門医に紹介して頂き適切な指導や診察を受けてもらえるよう支援している。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護職員を配置しており、常に健康管理を行い、状態に応じた支援をおこなっている。</p>	<p>○</p> <p>医療連携加算は現在とっていないが、体制は整えているので検討したい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>環境の変化による心身のダメージを少なくするため、ホームとしても早期の退院を希望しており、入院時から医療機関の相談員及び家族も含め密に連絡を取り合うようにしている。</p>	<p>○</p> <p>認知症があるとどうしても、当初の入院計画と違うケースが多い。今後ショートステイ等の組み合わせも視野にいれ、できるだけもとの安定した生活にもどれるよう支援していきたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>病状的に重篤なかたについても、医療行為が必要でない場合は入居して頂いている。その際は、十分に主治医や家族と話し合いをおこない方向性を決めている。</p>	<p>○</p> <p>医療連携加算は現在とっていないが、体制は整えているので検討したい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>状態に応じ、説明や相談を随時おこなっている。また、職員が不安を感じないように、いつでも連絡できる体制を整えている。</p>	<p>○</p> <p>まだ、チームとしての取り組みまでには至っていない。ケースごとに、検討会や勉強会をおこない、常にご利用者の意向にそった援助ができる準備をしていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>特に環境の変化を少しでも防ぐため、身の回りの荷物や家具類などそのままの移動できるように支援したり、ご本人のこだわりの部分を重視するなど、十分な話し合いをおこなうようにしている。</p>	<p>○</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	馴染みの関係が馴れ合いの関係にならないよう、常に人生の先輩としての尊敬の念を忘れない援助にこころかけている。	○ 継続研修を必要とする。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	こちらから提案したものを選んで頂くのではなく、本人の言葉や思いをくみとってあげられるよう、普段からの何気ない仕草や言葉を観察し記録に残す取り組みをしている。誕生日などは、本人がしたいことを聞いたり、普段の様子で担当者が思いを代弁したりできるようにしている。	○ 普段の生活でも、もっと自己決定できる場面があることを、全職員に周知したい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お風呂の時間や食事の時間など、まちまちなのが当たり前。他のご利用者に迷惑にならない限り、ご本人のペースに合わせた援助に心がけている。	○ 一部の職員でやはり業務優先になっていることがある。チームケアとしての確立を実現していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員で2名、理容師資格を保有しているため、時期や髪型など都度ご本人に希望を聞きながら理容を実施している。(入居時に何処を利用したいか希望を聞いた上で)	○ もっと、おしゃれができる・したい場面を多くもつようにしてあげたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味付け・味見・盛りつけ・片づけなど、いっしょに行い、意見などももらっている。	○ できる方への依頼が多く、決まった援助しかできていないように思える。多方面への援助の拡大が望まれる。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒については、行事の時に少量のみお出ししているのみで、個人的にはトラブルの原因になるので禁止としている。その他はご要望に応じ対応している。また、個人的な好みなども職員間で共有し良い援助ができています。	○ 可能な限りご本人の嗜好調査をしたり、満足してもらえる要素を入れていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンをつかむ記録仕方を工夫し、誘導時間をそれに合わせて失禁を防ぐ取り組みをおこなっている。また、おむつをむやみに使わない努力もしている。	○	全中止とはならないにしても、日中はパットをしなないとかの取り組みを今後はしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜が良い方、一応は決めているが、毎日入りたい方などの支援は随時できている。	○	お風呂に入らない方への支援方法(楽しむことができる)を、考えていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜、眠れないときは、お話相手をしたり、深夜ラジオを聞かれたり、朝起きれない時は、そのまま休んでいただいたりし、その方のペースにあわせた援助をしている。	○	職員の意識の仕方の統一をしたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人が得意とされていること、日課や役割を見つけ出し、心地よい居場所になるよう努力している。	○	職員主導とならないよう、楽しめる場面をもっと増やしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方については、無くなるというリスクを説明した上で、入所の際にもってもらおうか決めてもらう。外出時や神社参拝時のさい銭・近所での買い物などをする際に預かり金の少額を渡し、支払い等をしてもらう場面もある。	○	施設の性格上、自分の部屋との区別がつかない方もおられ、保管場所を忘れられたり、盗られたという方もできるかもしれないのでどうしても自由にしてもらう自信がない。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の状態をみて、近くへの散歩はできている。また、庭苑とラウンジは自由に行けるので、十分に気分転換できる。	○	一人で出かけたという希望がでることがあり、今後の対応の仕方を検討する必要がある。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お墓参りや、季節に応じた外出支援に心がけている。また、誕生日には個別対応で好きな所に出かけたりもしている。	○	家族も含めた外出支援を考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いたり、代筆したり、している。電話はいつでもかけられるよう説明や支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	たくさんの方に来ていただきたいので、玄関の横のスペースに談話ルームを設置し、自由にコーヒーも飲めるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止・虐待防止の研修を実施し、ケアのあり方について検討している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全く鍵をかけることはしていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホーム外(庭苑・ラウンジ等)に自由にでられるため、所在確認は常にしているが、全面的な見守りは難しい。夜間もユニット間の夜勤で連携して安全に配慮している。	○	安全をとるか自由をとるかについても、ホームの考え方にとられず、家族・本人の意向を確認して援助する必要がある。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や裁縫箱の中身など、ご本人がもたれる場合は、数や場所の確認をしたりしているが、異食をするから物を置かないというとらえ方はしていない。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年に1回事故防止の研修を実施し、緊急時対応の仕方を学んでいる。	○	常に対応できるように、マニュアルの見直しをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1回事故防止の研修を実施し、緊急時対応の仕方を学んでいる。ヒヤリハットを分析して事故防止の対策を実施している。	○	常に対応できるように、マニュアルの見直しをしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を実施している。	○	地域の方の一時避難場所になっているが、きちんとした決めごとができていないので、協力して作り上げていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に十分な説明をおこなっている。	○	安全をとるか自由をとるかについても、ホームの考え方にとられず、家族・本人の意向を確認して援助する必要がある。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の申し送りの徹底と異常の早期発見に努め、情報の共有化を図っている。	○	いつもと違う変化に気づく観察力をつけていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が責任をもって把握しており、管理や状態に応じ、主治医に相談をおこない、適切な援助がおこなえている。	○	介護職員に対する服薬の勉強会を実施する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	できるだけ下剤を使用せず、自然排便ができるよう、水分補給に努め、食物繊維のある食材を使うようにしたり、庭苑での散歩を誘ったりしている。水分量・排便日の確認がしやすいよう記録を整備している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実践し、必要に応じ歯科受診(往診)や指導してもらったりしている。	○	口腔ケアを全くしない(させてくれない)人への援助の仕方を検討する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一日に水分量・食事量等、把握しやすいように整備し、おやつ以外の時間でも、水分摂取していただけるようにしている。一日の栄養摂取量はおおよそ把握できるようにし、栄養バランスにも気をつけている。刻みやトロミなどできるだけ摂取しやすいような配慮もしている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>開所以来、感染症は全くなく、予防するためのマニュアルを整備し実施している。今年度も全員(職員も含め)インフルエンザの予防接種を受けた。</p>	<p>○</p> <p>面会等外部の方への感染予防もお便りで呼びかけているが、徹底できてない。具体的な改善策を検討中。</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>調理器具等は毎日塩素系漂白し、ご利用者の方に、調理等を手伝って頂くとき等、手荒い・消毒を徹底している。また、食材についても日曜日を冷蔵庫の整理日として、賞味期限の確認等をしている。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>あまりきちんと整理せず、家庭の雰囲気ができるように配慮している。また、何処でも腰掛けて話ができるスペースを各所において、のんびりできるように工夫している。事務室等は生活スペースから見えないようにしている。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>街中に位置しているが、4階の居住部は非常に静かで、穏やかなムードで、適度な広さと庭苑やラウンジの広い空間が開放感をもたらす。ラウンジから見える宍道湖の景色や外の風景はとても心を落ち着かせてくれる。季節ごとの飾り付けや置物も、家庭を視野にいれ和んでいただける住まいづくりに取り組んでいる。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食事の席以外にも、自由に座れる空間を所々づくり、活用していただけている。</p>	<p>○</p> <p>畳部分が少し高いためか、あまりご利用者に使っていただけていない。こたつももっと活用したい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にお願いして、できるだけご本人が使っておられた家具や壊れていても本人が捨てられないものなど、お部屋づくりを相談させてもらっている。	○	全員の方と言うわけにいかない現状があり、殺風景なお部屋も実在する。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は必ず朝行い、エアコンの温度調整もこまめにおこなっている。特に職員は動いているので暑いですが、ご利用者はそうでもないことが多いので職員に合わせないことの注意をしている。	○	換気も掃除するのも嫌なご利用者がおられ、対応の検討が必要。
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの箇所や、トイレまで間に合わない人には、ポータブルを設置し、必要ならベットに柵を取り付けるなどして、移動や移乗等がし易いように工夫している。	○	今後、介護用のベット等が必要とされた場合に、施設としてどう対応するかを決めておく必要がある。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お部屋ののれんに自分の部屋だとわかるような工夫をしたり、食事の席にご本人の座布団を置いたり等の工夫をしている。	○	介護度のばらつきがあるので、共有部分には、あまりマークや目印等をしたくない。ごく自然に認識して頂けるようなアイデアがほしい。(たとえばトイレなど)
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ラウンジでおやつや食事をとったり、庭苑で卓球をしたり、お地藏さん参りをしてお散歩を楽しんでもらったりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私たちが目指しているのは、とにかく笑顔のある生活です。そのためには、職員が笑顔の職場づくりをしていかなければなりません。日々、悩みながらの葛藤を続けていますが、いつ来ても温かい気持ちになれる空間をつくりあげていきたいと思えます。私たちも行く道です。そのときに、ここなら寄ってみたいと思える場所にしたいと努力していきます。まだまだ、発展途上ですが見守って頂きたいと思っております。

敬愛苑「基本理念」 ” 人と人 心の和を 大切に”